京城新聞

農商状況（七）

草　深（其二）

▲通貨● 上納季多少新貨の流通を見るも其他は一般に葉錢のみを使用す
▲人氣● 平穩にして時局問題等に關し盲動するものなく日韓人間交情良好なり
▲附記● 當地の主産物は米、紙及繭にして大豆、棉花等の産出は其次位に在り就中製紙業は甚だ盛にして其製品は多く本品の集散場たる宜寧郡新反に向て搬出せらる其産額一ケ年約五万圓に近かるべしと云ふ

玄　風

距離　大邱へ六里、昌寧へ四里
戸口　邑内約七百戸二千二百余人 日本人雜貨商一（男一女一）農業（男三女一内一戸は煙草栽培をなせり）あり又
▲作柄● 米作は近年無比の豊作なりとて村民等の豊年祝等を爲せるを聞く昨年に比し約二割の増收なるべし大豆は上記各郡同樣旱風害を受け生育不良約二割乃至三割の減收なるべし
▲商況● 春來穀價下落のため一般に商況萎靡せしも本年稲作の良好なりしため人氣稍々活氣を呈しつゝあり
▲通貨● 極少部分新貨の流通あるも一般に葉錢のみを使用すと云ふも不可なし
▲人氣● 一般に平穩にして日韓人間取引等頗る圓滿なり

大　邱

距離　釜山へ七十七哩八鎖 京城へ百九十七哩三鎖
戸口　韓八戸口　四千百〇六戸一萬五千二百十
日本人　九百四十三戸三千四百七十三八
五八
（男一八三八、女一六三五）
△作柄● 本郡は兩三年來挿秧季に際し降雨甚だ稀に水利の便なき一部は多く畑作を爲すの止むなきに至りしが本年は春來雨量潤澤にして普く植付を爲すを得たり而して是等兩三年間畑作を爲したる土地はその數年間乾固せる肥料分の一時に熔解吸集せられしに依るか其生育は極めて良好なり又晩稲は結實季に際し降雨なく爲に其成熟は例年より約半ケ月間も遲れたるやの感あり或は北道地方の通患たる霜害を受けんかとの虞ありしも本月六日は終日降雨あり以后豫想外温度上昇せしかば是等の憂は一掃せられたるものと云ふべく本月下旬に於ける暴風には多少の損害を與へたるべきも先づ本郡全体を概括して平年より約一割五歩の増收と見ば大差なかるべきか之に反して畑作物は何れも旱害を受け其生育甚不良なり就中大豆は其開花季に際し約一ケ月餘降雨なく且つ八月末に於ける暴風は甚だしき慘害を與へたれば平年の約四歩作なるべく荏子亦大豆同樣風旱害を受け平年の約六歩作位なるべし又當地は近年烟草栽培盛にして昨年は約三十町歩内外の作付なりしが本年は一躍八十町歩餘に及べり而して最初雨量稍々

過多の爲め葉伸び過度の氣味あり加ふるに多少の風害を受けたれば先づ平均昨年の八分作位なるべしと云ふ

俳　句

◯吟光小會集

舟唄に月淡として群千鳥　晃南
馬士唄の黄昏にけり冬木立　同
水神の祭の跡や啼く千鳥　仙花
船中の小博奕更けて啼く千鳥　同
老眼に刀研く日や秋の水　同

（六十四）　河合柳葉

三輪子は意外な清川の言葉に、思はず大山と顔を見合はせた。

清川は驚く兩人を知らぬ顔に。

「なぜかと申しますれば、私は當家の家令には相違ございませんが、尋常の家令とは家令が違ひまする。現に其場に在られ遊ばした貴女樣は御存じでございまするが、大殿樣御臨終の節、私を御枕近くお召しになりまして、爲雅もまだ若年の事だし、御室家内外の事は予から共方に命じて置くから、何事によらず共方の意見をもつて、御室家の家名を汚さぬやう、皇室の藩屏たる貴族の体面を傷けぬやう取計らつて下れと、呉々も仰せになつたのでございます。して見ますると、御前が姫樣を迎へ遊ばさない中に、何處の何者か氏素性さへ碌々に訊しもなく、妾などをこれ見よがしに屋敷に連れになると云ふは、取も直さず御室家の御家名に關る一大事と考へます。殊に誰方とは申しませんが、奥庭の四阿などで大それた密會など致すものがあるまでに、御屋敷の家風も紊れかけて居りますゆゑ、此上御前が爲たい放題の我任意を遊ばさうものなら、ますます御家風が紊亂致して終には妙な風評が世間へ洩れて、新聞などにでも出やうものなら、それこそ由々敷大事で、上は皇室へ對して申譯の辭がなく、下は累代の御祖先を始め、後事を托されました大殿樣へ對して申譯の致しやうございませんで、私は切腹して申譯を爲なきやならない事に立至ります。此度お連れになりました妾の事に就きましては、篤と考へました上でなければ何とも申上げかねます。」

とキッパリと述べて、密に兩人の顔色如何にと眺むるのであつた。

明かに名こそ云はざれ、我身の罪惡を恥よとばかり面責された兩人は、共に其顔は土の如く沈むで居つた。

清川は心地宜げに又も口を開いて

「いづれ此事に就きましては、篤と考へました上、申上げまするで、今日はこれで御免蒙むります。」

と、一禮した後三輪子の室を退いた。

兩人は云ひ合はした如く其後姿を眺めて顔を見合はしたが、互にホッと息を吐いた、

「どうだ、今の辭の樣子では確かに見られたに相違なからう。」

と、三輪子が力ない調子で云へば。

「異倒、彼の晩の密會を見られたと見えまする、奈何したもんでございませう、取んだ事になりましたね。」

「モウ、清川に秘密を覺られた上は、思ふやうに逢ふことがならないばかりかやないか、後には親爺の耳へも入れかねないが、然うなると私も此處の邸にも居られないやうな事になるかも知れないから、ならう事なら奈何にかして清川に暇を遣るやうに爲たいものだが、何か宜い思案はないだらうかね」

と、問ひかけた。

京城新聞

東拓株の割當

東洋拓殖會社の株式募集が意外の盛況を呈し其應募數は將さに三十六倍の多きに達したり、之れ抑も何が故に斯る好現象を呈したるか、其原因は種々あるべしと雖も、要するに一は經濟界の稍々順調たるに至れるに因るならんも桂内閣が實業界に對する信用より大阪東京等の銀行が大なる好意を以て其募集に盡力したると、所謂株屋なるもの〻駈引鞏拔とは大なる原因たらずんばあらず、故に半面に於ては此株式募集に就て桂内閣の財界に對して比較的信望あることを表徴せりと云ふも可ならむ、殊に喜ぶべきは韓國人の應募者が割合に多き事なり、當業者に於ても韓國人に何萬株と云へるが如き多數の應募ありとは期待せざりしならん、之れ列國に對しても充分拓殖會社の眞意を了解せしむると共に良好なる感情を寄與することを得べし、斯の如く順機に迎へられつ〻創立せらる〻は他日外債を起す場合に於ても都合よかるべし、余輩は韓國經營上より此盛況を喜ぶと雖も亦同時に前途一の杞憂を抱かざるを得ず。

抑も杞憂とは何ぞや虚業家の應募者多きに居るの傾きあることと是なり、權利株の賣買に依りて利益を貪らんとする輩の尠からざる事なり、試に見よ本願寺其他有數の富豪の外にして一萬株以上若しくは比較的多數の申込をなせるもの〻中には多數の虚業家あるべし此等の輩は韓國の拓殖に興味を持たざるのみならず實力もなく其拂込には他より負債せざるものは稀ならむ、此等の輩は單に株式賣買によりて巨利を獲せん爲に分不相應の申込を爲せるなり、世に之を稱して株屋と云ふ、斯る虚業家をして多數の株式を持たしむるは頗る危險なり何れの會社にても紛擾を醸生するは此虚業家なり重役撰擧に就て利益配當に就て何時も紛擾を起さしめ會社の平和健全を妨害するなり、渠等は會社の重役を操り配當額を多くして利を得る能はず亦株式價格を上騰せしめて巨利を占むる能はざるなり、渠等は會社の堅實なる發達を阻害するなり、日露戰後に勃發したる幾多の泡沫會社に鑑るも翼に見易き事なるべし、此等虚業家の跋扈を防がざれば會社の前途に幾多の紛擾を起して平和を破るに至らむ之れ余輩が今より豫言して憚らざる所なり、眞の堅實なる株主は韓國拓殖に興味を有し其利益配當も銀行利子より幾分多ければ滿足し而も自己實力の餘裕により應募せるものならざる可らず、之を以て有數の富豪を除くの外は何千何萬と申込むものよりも二百株以下の申込者は概して健全なる分子と云はざる可らず、之れ健實なる中流人士と見るも大なる過誤なからんか、茲に於て來月十日の拂込の際に三十六倍に對する割當に就て大に愼重なる考慮を運さゞる可らず、前述の如き虚業家の跋扈を防ぐ爲めには按分比例の割當は決して採用すべからず、斯くすれば其弊害の起るべきは見得て分明なればなり、最も堅實なる株主を得んとすれば其割當は按分比例に依らずして先づ小より大に及ぼすの割當をなさゞる可らず、之れ會社を健全ならしむる所以なり、當事者たるもの深く顧ざれば他日弊害に堪へざるの時來らん余輩は今に於て之が警告を與へ置かんとするもの也

●漢城便り

▲所謂一進會員謀殺事件の大割増にて片附きたるは余輩の不快とするところに有之候何となれば余輩は今日と雖も尚彼等少數の侍天教徒の死は彼等自身が招ける禍にして[illegible]なるに外ならずと信ずるが故に候

▲招禍致死の韓人等が侍天教徒なりしかは知らねど偖かに一進會員ならざりしことは余輩が曩日の紙上に於て明言したるところに候牟田參謀長も今回の出張により致死韓人等が所謂侍天教徒にして一進會員に非ざりしことを慥められたるもの〻如くに候さるにても何か故に彼の一進會員等は本事件を買込みて大騷を爲したるや此所一番彼等の心事を糺明するの必用有之候

▲東拓株の意外に歡迎されしは余輩の大に喜ぶところに候但内定せる役員の顔觸に到つては本田博士を別として總裁以下に對し甚だ感服致兼候何となれば軍人たる宇佐川中將を總裁とする東拓が他日歐米の市場に社債を賣出す場合に於て事業經營の中心者が軍人なるが故に社債に對する人氣の惡かるべきは今より察せらるるが故に候中將如何に實質に於て良かるべきも歐米人が軍人に對して營利事業經營の資格ありと認めざる今日に於ては不適任者も同樣に有之候他日社債賣出の場合に於て余輩の言の空しからざることは必ず發見せらるるならんと被存候

▲閔泳綺はドウでもよしとして吉原氏の副總裁は算數外に有之候若夫れ嶺八郎氏の理事に至つては世にはこんな馬鹿な人撰も有るものかなと只驚くの外無之候但し嶺氏が京城に乘込んで幾日間其椅子を維持し得るかは一の疑問に有之候

▲太皇帝の子分にして常に挾雜の頭目を以て目せらるる李鳳來等が工業に從事するとのこと扨も良き口實を以て宮廷の金を引出したるものに候工場も保護金六萬圓も遠からず烟と相成候事は受合に候併し此は統監仁政の一部と解釋すれば何等差支有之間敷候

東京電報

▲ヘヂン博士 瑞典國大探險家ヘヂン博士本日入京せり(十三日發)

▲韓國の應募高 韓國に於ける拓殖會社株式申込みの數は八万七千五百八十株にして其内日本人三萬七千七百七十五、韓人四萬九千八百○五なり

▲清帝即位 清帝の喪は本朝發表せらる(醇親王の息子)皇帝の弟皇太子に立たせられ續ひて御即位あらせらるべし而して醇親王は多分攝政となるべし

▲拓殖株の申込 拓殖株申込みは三十六倍六分八厘に略ぼ決定す

▲赤坂離宮觀菊會 十四日東京赤坂離宮に於て觀菊會を催さる皇后陛下行幸遊ばされ各皇族以下内外人一千餘名[illegible]

(以上十四日發)

雜報

●永濱總長等拜謁 永濱關稅總長及稅關長會議列席の各稅關長は十四日午後一時任度支部大臣帝同拜謁仰付られたり

●松平子爵の敍勳 赤十字社韓國總委員部總會に臨場の爲め入京したる貴族院議員本社理事松平子爵は去五日韓國皇帝陛下より勳一等八卦章を授與せられたる由

●副統監の全快 曾禰副統監は四五日來微恙引籠中なりしが十三日より出勤す

●統監府員に從軍紀章 元外務省所屬なりし統監府員にして戰役に從事敍勳の恩命に浴したる向きには其筋より從軍紀章を送達し來りたるを以て不日夫々發送せらるべし

●趙農相の歸城 東萊溫泉に轉地療養中なりし趙農相は今十四日午前十時半同地を發し午後八時二十八分南大門驛着歸任の筈

●清帝の訃に付 清國總領事府員談 當地清國總領事府員某氏語つて曰く昨日の各新聞は一樣に清帝崩御の電報を掲載すと雖ども當總領事府に向つては崩御の公報は勿論、似寄の電報も來らず尤も陛下が御不例なることは承知せざるに非ざるも斯く急に病の革まるとは余の信ずる能はざるところなり、本國政府より當府に來るべき公報は大抵始めに東京の我公使館に來り夫より當方に電送せらるるものなれば今回の訃報も或は新聞紙の分より遲れて來るやも知るべからず而れども只今迄には何等の報に接せずと云々

●拓株應募地方別 昨報く外東洋拓殖株式會社株式應募の報告ありたるもの左の如し

春川	二、三三○株	平壤	二、四三九
鎭南浦	三六五	群山	五、三八七
木浦	一、五○二	光州	一、五○一
大邱	二、八九四	元山	一九五
咸興	一、一五		

右の内平壤群山の如きは昨報後報告ありたる數を合計したるものにして本日迄の累計は八萬五千三百九十一株にて内韓人五萬八千二百五十二株なり

●徵稅の成績 本年度地稅は之を昨年に比し一時は二百十萬圓の減收を見越計計畫上甚だ憂慮せしが地方騷擾の少しく靜穩に歸したると共に徵稅機關の活動により本年六月以降は前年の同期に比し每月增收を得遂に去る十月末日に於ては約百三十萬圓の減差となり更に今後十一及び十二兩月に於ては幾に五十餘萬圓の增收を得べく特に地稅以外の收入は甚だ良好なるにより結局本年度租稅收入は前年に比し[illegible]の增收を得べき見込なりと云ふ地稅徵收の累月統計は左の如し

月別	二年 圓	三年 圓	比較增△減 圓
一月	九四七、四四四	一、一一五、五六八	△一六八、一二四
二月	三三一、五五六	一、四四四、七二二	△一、一一三、一六四
三月	七〇九、〇七一	九六七、六七七	△二五八、六〇六
四月	四〇二、二六一	七六四、〇〇二	△三六一、七四一
五月	三六五、七二五	九二四、二六二	△五五八、五三七
六月	三二〇、四〇九	六四四、四八四	△三二四、〇七五
七月	四三三、五六八	三六四、六七三	六八、八九五
八月	四六九、九六九	一六六、四六六	三〇三、五〇三
九月	三四八、四二四	一〇二、六一九	二四五、八〇五
十月	二〇七、四〇一	一九、五一七	一八七、八八四
計	四、五三五、八三三	六、四九三、九〇九	△一、九五八、〇七六
地稅以外の租稅收入十月末累計	三、三六四、四一〇	二、二九四、八一九	九九九、五九一
合計	八、〇四一、三〇三	八、三四九、一二三	△三〇七、八二〇

●鐵道運輸聯合大會 韓國鐵道運輸聯合會組織に就ては屢々報道したる如くなるが愈々來る廿三日午後一時より龍山の桃山溫泉三木熊之助方に於て大會を開くこと〻爲し會員一同に通知書を發したる由同大會の議案は會則、計算規程役員撰擧、事務所を龍山に置くの件機關雜誌發行の件等なりと

●愛國婦人會 愛國婦人會韓國本部の主唱に依り日韓各地會員の贊同援助にか〻る討伐軍隊憲兵警察官慰問計畫は曩きに慰問袋並紀念繪葉書各三萬以上を分配寄贈し尚繪葉書代として集まりたる剩餘金を以て將校、准士官及警察高等官一千五百餘名に對し更に總裁宮妃殿下御歌入縮緬帛紗を新調し寄贈し且歸還軍隊輸送地に關する韓國委員部にして本會を代表し物品を贈呈して送別の意を表せしむる等茲に全く討伐隊慰問の手續を了したりと因みに總裁宮殿下の御歌は左の如し

花を見て思ふこゝろを
いさはさてちるを
をしまぬものゝふの
こゝろにゝたる
山さくらかな　智惠子

●軍隊の感謝 愛國婦人會員有志の同隊の大慰問に對し長谷川軍司令官、岡崎師團長、宋内部大臣、明石憲兵隊長よりは特に丁重なる感謝狀を寄せられ其他各地駐在軍隊、憲兵隊等よりは總代名、個人名を以て何れも非常なる感激の下に認めたる謝狀を韓國本部に送達し其數五十餘通に及べりと

●赤十字社新入社員 赤十字社韓國總委員部總會に際し日韓多數の有功社員特別社員を出したるは已報の如くなるが新に終身社員、正社員となりし者京仁其他を合せ一千余名に達したりと

●釜山委員部總會 愛國婦人會釜山委員部委員諸氏は先般總山委員部長と共に會員の大募集に着手し熱心奔走の結果六百余名の會員數に達し尚續々入會申込みあるを以て愈來廿一日を期し盛大なる第一回總會を擧行し翌廿二、廿三兩日同委員部資金募集の爲め大演藝會を開催する由

●[illegible]に於ける米 朝鮮新米は古米の拂底せる際とて小口ながら相應望手あり荷動きも割合好況なりしも何樣產地は次第に低落を報ずるより相場次第安を告げ一時は意外の安直を見るに至りしも最近產地は二十錢方引返したると內地米又昨今一寸氣直りを呈せる等にて人氣大に持ち直し群山特品十三圓二十錢處迄引戾し弗々手合せ行はれ居れり

●仁川商業會議所會議 仁川商業會議所にては明十六日午後五時より役員會を開き左の三案に付き詮議する所あるべし

一、穀物檢査に關する件
一、決算に關する件
一、常議員補缺選擧行否に關する件

●仁川民團費事後承認 富田仁川民長は明治四十一年度歲出入追加豫算(寄附金編入處分の件)及左に揭ぐる同年度特別會計仁川病院歲出入追加豫算に就き急施を要するものと認め民團規則第二十九條に依り專決執行したれば昨日信夫理事官まで事後承認を申請したり

歲入 臨時部

科目	本年度豫算額	追加豫算額
第二款補給額	九、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
小計	一三、九〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
合計	六六、五三六、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇

歲出 經常部

科目	本年度豫算額	追加豫算額
第一款仁川病院費	五一、二六六、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
第二項雜給	一〇、五七三、〇〇〇	—
七諸給費		二、五〇〇、〇〇〇
小計	五四、六六六、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇

●信用組合資金申込 仁川信用組合の資金申込締切後に於ける形況を聞くに當初の豫想一口三圓千口なりしに反し僅に五十口百五十圓の申込あるに過ぎざるも尚ほ活躍を試み之がため頓挫を來すが如きことなかるべしと

●航海獎勵と特別公債 政府が年々航海造船獎勵航路補助費として支出する費目は頗る多額に上るも從來種々の弊害を生じて效果顯著ならず寧ろ社又は航路を特定して資源を內國債に關する特別公債に仰ぐこと〻せば政府財政上及び航業の完成上一擧兩得の實を得べしとの說在野有力者間に起り或は來期議會に提案を見る可しと

●警察署長の諭示 仁川警察署長宮舘貞一氏は萬石洞料理店營業者十一名を召喚し市街を距るの遠近に依り料理店の取締に寬嚴あるの理由なければ之に違犯せざるやう注意すべく若し遊廓同樣の營業をなすに於ては斷然たる處置を採るべしと諭示したる由

●商業會議所決算 仁川商業會議所より役員會に報告すべき明治四拾一年度決算等を聞くに左の如し

	豫算額	實收額	差額
收入	七、七六六、五〇	六、八〇三、一六	九六三、三四

支出の方面に於ては豫算額七千七百八十六圓五十六錢に對し實際支出せる額は六千五百七十六圓七錢にして千二百十四圓四十三錢の剩餘を生せり

●米總領事晩餐會 米國總領事サンモンス氏は目下滯在中の東京大使館書記官チェ氏鍋島外務部長三浦理事官同夫人其他の友人を招きて一昨夜鄭重なる晩餐會を催したり

●銀行家集會 日韓銀行集會所は一昨十三日午後六時より其例會を日本人俱樂部に開けり

●第一銀行の遊宴 第一銀行は本月十六日來京中の各稅關長を淸華亭に招宴する由

●感謝狀を送る 仁川小學校役中に金二十五圓を寄附したる足立瀧二郎氏に對し仁川民團役所より昨日感謝狀を送れり

●乘車證明書 仁川民團役所より昨日までの入營者に對し乘車證明書を交附したる分は七件なりしと

●外國船入港 外國リクマース號は一昨日上海より仁川に入港したるが同船に敷設せらるべき鐵管若干個を陸揚したる後釜山へ向ふ筈なりと

●木內次官の出發期 病氣のため平壤出張を見合せたる木內農商工部次官は十六日出發の豫定なり

●村田少將の統監出迎 村田少將は十六日朝出發馬關に伊藤統監を出迎へらるべし

●大垣某の歸城 萬朝報に韓國陰謀の張本人なりと記載せられて有名となりたる大垣某は十四日東京を出發したる由にて今明日中に歸城すべしと

●江華島出張 江華島暴徒討伐の爲め仁川警察署よりは昨日午前野村警部以下巡査四名同地に急行したり

●吉松書記官の歸任 東上中なりし吉松度支部書記官は今明日中歸任する筈なり

●小松書記官の東京着 上京せられたる小松書記官は十三日東京に到着したり

本日の集會

●日本メソヂスト教會 理事[illegible]名古屋
城内に於て左の說教ある筈
午前十時半 火のバプテスマ 木原牧師
午後七時 眞の光 同人

●日本基督教會 旭町四丁目
午前十時 教會觀 石原牧師
午後七時半 傳道說教 同人

●西本願寺 長谷川町
午後七時 傳道說教 伊藤開教使

●京城基督教會 の出町にては
午前十時 巖上の夢 米澤牧師
午後七時 崇高なる煩悶 同 牧師

近事片々

▲桂內閣の四十二年の總延額は一億七千八百餘万圓なりと是れが桂侯の御手際に候

▲其內河川改良港灣設備其殖產興業上缺くべからざるもの千七十八萬圓を投ずる由也

▲何と云ふても太郎宰相に非ざれば[illegible]延は六箇敷實業界に多少信望を擁せる宜也

▲更に仰望するは對外策の刷新殊に對淸策の刷振也壽太郎伯思の外に揮はず遺憾也

▲山縣系惟一の外交家を以て人も我も許す廿日鼠外相近來稍々自誇驕慢の嫌なきや

▲世間よりチヤホヤされると直ぐ大家然と自惚るゝは小人の僻壽太郎伯健在なれや

▲統監も廿日過ぎには歸任せらるべし漢城の政界今より多少の活氣を帶び來らん乎

▲統監公如何なる成案を胸中に蓄へつゝ來るべきか雲か山か呉か越か聊か待ち遠し

▲今夏歸朝の際は之が御名殘りかと思ひしものも勘からざりき偖も世は有爲轉變也

▲南山の半腹に統監旗の翻翻たる春秋の好時季のみと思ひしに本年は倍も珍らし乎

▲公の決心にして定らば爲すべき事甚だ多からむ今回の歸任には須く大經綸あらん

▲曾禰副統監も歸朝せざるべしとの說あるも恐らくは統監在任中は飯東さるべき乎

▲二人揃ふて漢城に新年を迎ふる如き事は或は無からむ若し有れば甚た稀有の珍事也

▲一去一來ご韓人等何時も冷かに笑ふヨボ共何が爲に笑ふ乎往來の頻繁を諷する也

▲副國の新聞にて宋內相は副統監に感服にて痛く赫怒せられたる如く記せるは異乎

▲韓國一の智者か統監公を觀分もできに言誇れるは全く事實也と云ふ者あり然る乎

▲如何に信任せるものと雖も餘りに圖々敷事動ありては嫌惡の情を起すべき筈に候

▲萬朝報の報導によりて評判となりたる大垣某は既に東京を發して京城に向へりと

▲容易ならぬ陰謀は果して成就するに至りしか馬鹿げた陰謀の成行こそ滑稽ならん

▲統監歸任すれば李容九の如きも自然に歸り來るべし韓問題は總て京城に移らん乎

▲李容九等が何時迄も東京で持てると思へば誤り也策士杏人形の末路や如何ならん

▲李容九背後の日本人策士等も統監の歸任と共に京城に移り來らん乎嫩田沒自在也

▲伊藤公の周圍に斯る輩の纏ふは余り面黑からぬ衣着なき者雄斷一番を要する也

店員評判記

辻屋商店 松浦與一氏

泥峴街筋で西洋雜貨店の大關といへば世人はマヅ辻屋と龜屋に指を屈するであらう、之れ畢竟するに主人其の人の非凡なる腕前と博大なる信用とに基くことは言ふ迄もないが又店員其の人の勉勵と熱心と着實とが與つて多大の力あることは言ふを俟たざるところである松浦與一氏は實に辻屋商店の花形役者である氏性温厚にして和易而も頭腦の明晰と才氣の煥發せるは恐らく當時の青年中稀れに見る人物であらう、生れは廣島縣御調郡中庄村郷里にて普通學を修め韓國に渡つたのが明治三十五年六月爾來同店に身を委ね其の間一日と雖も倦色なく孜々汲々として店務に鞅掌し驟て他店員の模範とも目さるゝ程になつたので主人松浦氏も大に見る所あり擢拔して會計事務の重任を託し兼ねて店一切の監督方を任かし專ら股肱の臣として重用することゝなつたのである氏はソレからといふものは一層身を以て店務に盡碎し複雜なる會計事務を明快に處理し常に主人をして内顧の患なからしめ一意唯店運の繁榮を期せんことにのみ腐心し居る所から現今にては單に主人の信用を厚うするのみならず氏を知る一般の顧客は誰でも褒めそやさぬものはないさうである生年廿一主人松浦氏とは叔父甥の間柄ださうだ

辻屋商店 山脇林太郎氏

氏は廣島縣尾道市の産年歯二十七辻屋に奉公したのは明治三十九年二月であるが之より先き氏は郷里に於て普通學を修め續いて尾の道の商業學校に入り三十二年七月首尾よく同校を卒業すると共に大に多年蘊蓄せし學理と才能とを揮つて商業界に雄飛しやうと思つて居る矢先き徴兵の猶豫を得て爲し居りし爲め一年志願兵となり續いて日露の戰役に從事し各地に轉戰して功勳を奏したが戰役の終りを告ぐると共に滿期除隊となるや直ぐさま渡韓して辻屋の店員となつたのである氏は現今同店の店員中で樞要の地位を占め常に帷幕に參して商略を劃策し專ら主人を助けて店運の隆盛に餘念がない氏人と成り眞摯にして端毅而も事に當つて果敢勇邁一點糊稜稜腰跡の跡なく闊達をして敬嘆措く能はざらしむるものがある蓋し商才士魂とは氏の如き人物をいふのであらう而も氏や幸ひに前途遼遠願はくは今後十年一日の如く此の商才と士魂と學理とを以て一面には同商店のため他面には商界の[illegible]め大に奮勵蹶起せんことを望んで止まぬのである

●大盗賊の嫌疑者捕はる
……本春以來滿韓を荒せし曲者……

本年四月以來滿韓に乘り込み旅館大連芝罘は勿論長春ハルビンを股にかけ到る所で強窃盗を働き而も犯人は巧みに其の筋の眼を晦まし神出鬼沒今日は彼處に現はれしと思へば明日は何れにか身を隱すといふ早業其の筋に於ても之が逮捕に困難を感じ居りしが不思議にも去る三日の夜より奚太平町九州樓に一人の商賣人らしき男の流連し居り今日は新町明日は料亭と大盡風を吹かし居る模樣の如何にも怪しければ西部警察署刑事大塚氏は此奴必定今春來滿韓を荒らし回りし曲者に違ひなしと目星を付くるや否や身は直ちに巷間の一野夫と變じ時には同亭に[illegible]りしが其の金使ひの奇麗なのと遊び振りの大膽なのとは何う見ても素正に世を渡るものとは思はれざるより大塚刑事今は一時も猶豫出來ずとし一昨夜御用の聲諸共に逮捕し有無を言はせず本署に引致し嚴重なる訊問をなせしが曲者は却々に白狀せず唯事實といふは自分は此の頃京城に來り商業を視察せばやと足を留め旅の鬱晴しに九州樓に流連し十三日の夜新町の清月樓に登り同樓の玉子といふ娼妓を相手にして騒ぎたる迄のことなりと大塚刑事は却々に油斷せず今に手を替へ品を替へて訊問をつゞけ居る由なり因に嫌疑者の原籍は福岡縣久留米三井郡にて姓名は若染萬作(三六)といふもの也と

●今様石童丸
……父を慕ふて遙々來る……

可憐なる母と少女は其の後二三日を經て右の安宿をば立ち出で何れへか姿を隱したるが聞く所によれば母といふは福岡縣若松市のものにて今より三年前馬關にて夫と共に青物商を營み可なりに家計を立て居りしも或る時夫が他の商賣に手を出し其の揚句散々失敗を招き今は親子三人の生計さへ覺束なくなりしより昨年夫は此の失敗を挽回せんものをと雄々しくも志を決し妻子に篤と言ひ含めて郷里なる若松の實家に托し飄然として韓國に渡り身は此れ一個の朝市商人と成り下りて雨の朝も風の夕も怠りなく商賣に勉強し居れるが話し變つて國許に取り殘され明け暮れ夫の出世父の立身を神佛掛けて祈り居る妻子のものは夫が他日錦を着て故郷に歸る迄もせめて何程かの貯金を爲し置かばやと自分は姑小姑の万事の世話を爲す間も惜しく余所の洗濯裁縫等をなし娘は他家の守奉公に遣りて僅かな給金を取らしめ唯々夫の歸るを指折り數へて待ち居る中にも其の家の姑といふが人並勝れて意地惡く少し許りの誤ちを殊に取りては口汚く罵りいかにも出て行けがしに取扱ひ果ては偶々母に逢ひに來る娘迄にもいらざる惡口を併べ殆んど身の置き所もなき程に虐待せらるゝにぞ終に妻は溜り兼ね實家に逃げ行きしことも屢々なりしが實家の父といふが昔氣質の頑固者にして何れ程娘が胸の苦痛を訴へばとて聞き入れざるより果ては女心の一圖に夫を思ひ出し夫の意に逆ふとは知りながらも娘を連れて遙々此の地に慕ひ來りし次第なりとか(終り)

●迷の夢より覺む

仁川花町一丁目筑後亭となん呼ぶ曖昧飲食店に酌婦を勤むる山口つると云へるがあり外面如菩薩内心夜叉と形容するも餘りに古めかしけれど兎に角日本は愚か韓國までも食ひ詰めたる屑の中の屑物丈ありて惡智慧のみは人並優れ賣婦一通りの修行は積みて優睨みの手解きより泣落しと云ふ奥の手まで何一つ心得ぬと云ふことなき厄介の代物なるが斯る惡魔に[illegible]らして漸く築き上げた店舗をも人手に渡し揚句の果ては金はなくなる女にや捨てられ前にも後にも進み兼ね寒天に大聲張り揚げ泣いて泣き崩れたる憫れ恐かの男あり此者は同地公園地裏通建具職大谷某とて昨年冬頃までは酒は無論の事煙草すら喫まぬ律義一遍の男にて從て商賣も繁昌せしが如何なる天魔の魅入りしか無理強ひの酒が手傳ふ附元氣怪しき處に怪しき夢を結べるがそも〜の起り當の敵娼こそ誰れあらう前記筑後亭のおつるなりしなりしがさて如何なる分別盛の男も此の道に掛けては別物にて大谷は夢は覺めても覺めやらぬ心の迷ひに操られ得意を廻る足はいつしか狂ひておつるの許にのみ運ばるゝやうになり日一日と繁くなりしがおつるも左る者大谷の樣子を斯くと見て取るや下帶解いてもてなしたれば無心されては札びらを切り帶をさへ取らせがまれては鉛の如く鎔け女よ〜鑄型の儘になりたれば瞬く間に有金は云ふに及ばず不義理の借金まで出來首も廻らぬ窮に陷りいつその事女と駈け落ちせんと相談を纏め時間を定めて桜[illegible]停車場に至りしに女の姿見えざるにぞ大谷は痛く落膽し果ては女の薄情を恨むと共に漸く改悛しもと〜通り商賣に身を入るゝこととなりたりとは結構〜

●面白い陽氣な商賣
……モデル男や女の身の上……

日本では日本畫にモデルの必要を認めたのは最近のことであるから世間では物珍らしく兎や斯う騒ぎ立てるので學校は非常に迷惑を感ずることがあるがまづ最初世界で美術の本場たる佛國巴里に於けるモデルの狀況を聞くに巴里の美術學校へは毎月曜日に男女十四五人のモデルが來て雇つて呉れと申込をする係りの者は直ちに希望者を裸にして體格を見て適當であると四週間五週間前の分を豫約する[illegible]して畫師は學校以外自分の家に畫室を持つて居つてモデルをば學校の歸りに家迄連れて行くからは[illegible]しい代りに又金にもなる、概して此のモデルに二種の別がある一つは本業のモデルで之は重に伊太利人で中には夫婦も子供も揃つて居る一家族が祖先の代よりモデル營業をして居る一團がある其親戚の者も國許より來つて其群に投ずる其群の中には羅馬の古畫の如き骨格を有するものがある一は副業のモデルで重にギリシャ邊に多いやうであるそしてギリシャの勇士グラジャトールと稱する美術學校の常雇のモデルは筋の發達が圓滿で體格はギリシャの彫刻に酷似して居た年齢は二拾四五歳の壯年で常に筋肉の發達に努めて居たとのことである

●過雁一聲

爰に南大門外の某韓人家屋に何れは若氣のいたりから國許をば出奔せしものとも思はるゝ若夫婦あり男は松浦某といひ女は友松しかといへるが今ダン〜男女の素性を探つて見ると女といふは本年四月頃大分縣なる故郷を後に見父母や姉妹を振り捨てゝ仁川の叔母なる人を便つて來り身の振り方を叔母に賴みしも別に差し當りこれといふ考へもなきよりしかは他所の針仕事や洗濯などをして小づかひを取り居りしが叔母は年頃の娘のことではあるし二つには便り者なれば何れへか良縁もあらば嫁入りさせんものをと心配し居る中此の家に以前より屢々遊びに來る若者ありしが年頃の男女のことゝていつしか互に思ひ思はれ終に割なき仲となりしは娘は叔母の家に居つては思ふやうに樂みも出來兼ぬる所より或る夜男と手を取つて駈け落ちと洒落れ前記の所に假りの世帶を持ちたるも女は近頃に至りて仁川の叔母が戀しくなり明け暮れ東の空を打ち眺めては折柄の雁の聲に一しほ心を痛め居るとか

可娯欄(廿四)

◉俚謠正調 (十一日本紙三面記事參照) 魚友痴史

▲今様石童丸
切れぬ親子の縁のひも○○○何んとせいざう胸の綾

▲不親切な醫者
慾が深欲たい金錢取りに粗藥もり悶措くい醫師

▲威珍藝妓上
時を江上に名もたか助の前身似合はぬ心がけ

●醉狂から窃盗

兵庫縣神戸市仲町四丁目十六番地目下西大門外鐵道官舍六十四號印刷職工笠原虎太郎(三七)及び同職工仲間の小幡某二八は一昨日午後十時頃太平町料理店いろはに上りヤレ酒だ肴だ女だと大に大盡風を吹かしたるはよきも翌朝午前二時頃に至るや虎太郎は家人の隙を窺ひ同亭の押入にありたる衣類數點を大布呂敷に掻きさらひ居る所を同亭の女中オハルに見咎められ密と家人に告げたるより主人は直ちに取押へ其筋に訴出でたるが西部署より巡査出張の上同人を引致し取り調べたるが結局醉狂の上と判り放還しやりたり

●猪獵の催し

慶尚北道[illegible]山郡梁山城を距る一里許りの山中に猪獸多く往日勿禁驛長等の一團同所に獵して大猪二頭を得たる由なるが其後にも同地方の耕作を害する猪獸多きよりなるより大邱理事廳内の好獵家は休日を撰み同地に猪獵の壯遊をなさんと目論見中なりと云へば當地の好獵家も一番銃を肩にして出掛けては如何

●仁川の初雪

朝來の曇天氣さへ寒く風か雨か將た雪かと氣づかひ居りたるに果して午前十時頃よりチラ〜と白きもの降り出し正午には綿の如き大きなのが折柄の強風に和してマンヂ巴と降りしきりしが驟て程經て小降となり四時頃降り止みしが是が今年に入つての仁川の初雪なり

●十月中流行病

十月中發生したる流行病二十二人内全治六人死亡四人現在避病院入院者十二人あり

●天氣豫報(自十四日午後六時至十五日午後六時)

北又は曇後晴

十四日午前六時各地氣象概況 尚高氣壓は堅し北又は西風吹き概ね晴天なれども北部は曇天の所あり

落語

猫久（一）

餘話樓小さん口演

江戸名物の職人名前を清水久六と申します此者は職人の喧嘩早い中に居りまして此久六一遍も是れまで喧嘩をしたことはございません夫れ故職人中間の友達でも此久六の立腹いたした顔といふものは見たことがない喧嘩をしたことは固より見たことがございませんから誰いふとなく久六を猫な奴彼奴位い猫な奴は職人には珍しいまるで猫のやうな奴だといふ所から誰いふとなく猫久といふ字名を附け仕舞ひには段々慣れて參りまして久六さんといふと返事が出來ない猫久といふとハッと直くに返事を致します[illegible]慣て來まして友達の親しい奴は猫久の久の字を略して猫〳〵と呼んでも夫れで返事を致します中にはニャゴ的なんて呼ぶ者もありますが[illegible]的では呼方が[illegible]かつたかも知れませんが只今申しました通り猫と字名を附けられます位だから喧嘩などはしたことがないエヽ一寸の虫に五分の魂ひといふ譬へがございます或日雨降り揚句道も極く泥濘つて居りますが尻を七分までからげて平常柔和な猫久の顔が凄い顔になりまして目尻を上げて己れの家に裸足で上つて往かうと思ひまして門口まで來ましたが泥足では己れの[illegible]に上がれませんから喉を枯して門口で吐鳴つて居る

久「オイれ光今まで乃公は友達中間と喧嘩をしたことはなし猫といふ字名を附けられる位だから人と爭論をしたこともねへが今日といふ今日は我慢が出來ねへ滿座の中で恥辱を搔かしやがつたから先きの奴らア殺すか乃公が殺されるか命の遣取をしなくつちやアならねへサア脇差を出せ

と吐鳴ります猫久の面色といひ其擧柄といひ平常とは恰で異なる人のやう何處の女房だつて亭主が喧嘩をして歸つて參りまして脇差は預置き棒切一本だつて出す者はありません擧柄も面色も變つて居るから何ういふ譯であるか何うしたかといつて聞きさうなものでありますが猫に連添ふ妻君何んと心得ましたか只今夫の吐鳴るを聞いてチッと猫久の顔を見詰めて居りましたが敢て驚く樣子もなく固より裏店の狹い家ではありますが簞笥の抽手を搔探り脇差一本持出しまして其脇差を神さん直ぐ御亭主に渡すかといふと亭主を門口に待たして置きながら神さん何んと思つたか神棚の前にピッタリ平つたく坐つて仕舞ひまして何にか言草を言ひながら何にかを念じて三遍ばかり此脇差を頂いて暫く神を拜んで居ります何んぼ猫と字名を取りました奴でも是れから人を斬りに參らうと致します所ですから殺氣といふものが立つて居ります神さんの脇差を持つて來るのを待つては居ません引つたくるやうにして脇差を取つてスット一目散に驅出しました

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金[illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別[illegible]

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城西大門小門通 電話六六三番